

受診時行動調査（最終集計）

受診控えた層の8%「症状悪化を自覚」 歯科の受診中断は長期の傾向

県下の開業医・開業歯科医師約6,400名で組織する神奈川県保険医協会は、新型コロナウイルス感染拡大下で緊急事態宣言が初めて発令された2020年4、5月、患者及び地域住民がどのような受診行動を行ったかを調査。このほど最終集計を行いましたので報告します。

【主催】神奈川県保険医協会／【実施期間】2020年11月～2021年2月

※緊急事態宣言発令時（昨年4、5月）と調査時点にタイムラグがあるのは、一定期間受診間隔があくことにより体調に変化が現れたかどうか捕捉するため。

【配布方法】各団体内から郵送または手渡し／【回収方法】返信用封筒での郵送または各団体内の手渡し

【調査の目的】緊急事態宣言下で、どのような受診行動があったか、受診を控えた方に自覚症状があったか、その方々がどのような対応をしたかを把握するため。

【調査対象：各団体母数】末尾（ ）内は団体内の回収率

神奈川県建設労働組合連合会組合員（本人）：53,103人（2021年1月末）／回収数：1,168（2.2%）

神奈川県建設労働組合連合会・主婦の会：6,984人（2020年12月末）／回収数：118（1.7%）

全日本年金者組合神奈川県本部：10,073人（2021年1月）／回収数：1,054（10.5%）

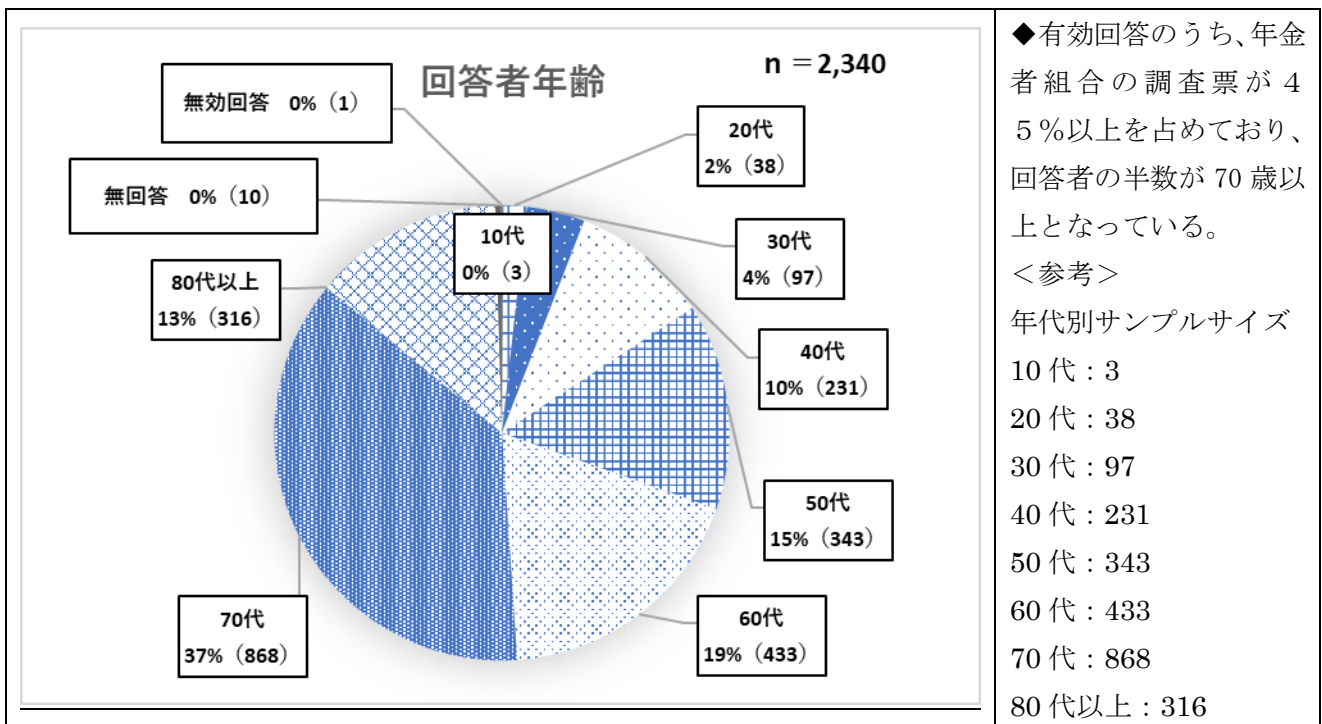
【合計回収数】2,366（上記回収数+白紙の無効回答26枚含む）

【有効回答数】2,340（1つでも回答があるものはすべて有効回答として処理）

【無効回答】1つの選択の設問に複数選択しているものは無効処理

【無回答の処理】設問ごとに「無回答」に振り分け

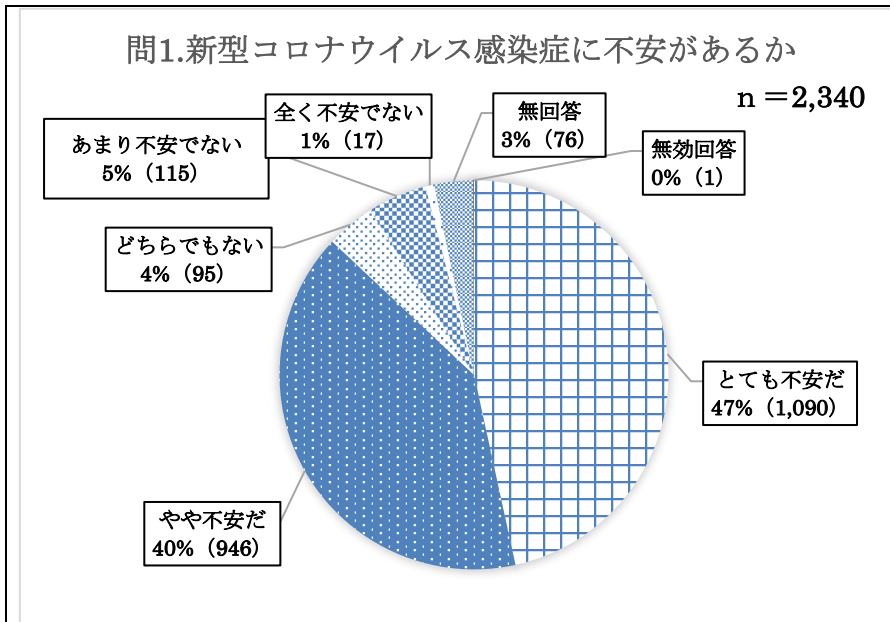
※少数以下は四捨五入のため一部合計が100%にならない部分がある。



新型コロナ 「とても不安」「やや不安」あわせて87%に
年代上がるにつれ「とても不安」増加

問1.新型コロナウイルス感染症に対し、不安がありますか。(1つを選択)

①とても不安だ ②やや不安だ ③どちらでもない ④あまり不安でない ⑤全く不安でない



◆①とても不安だ～⑤全く不安でない—の5段階で聞き取り。「とても不安」と「やや不安」を合わせて87%と大部分の方が不安に思っている結果となった。

「とても不安」と答えた割合を年代別にみると、40代以降はわずかではあるが漸増の傾向にあり(10代は回収数3と少ないため比較グラフから除外)、80代以上は52%に上った。

<再掲>

年代別サンプルサイズ

20代 : 38

30代 : 97

40代 : 231

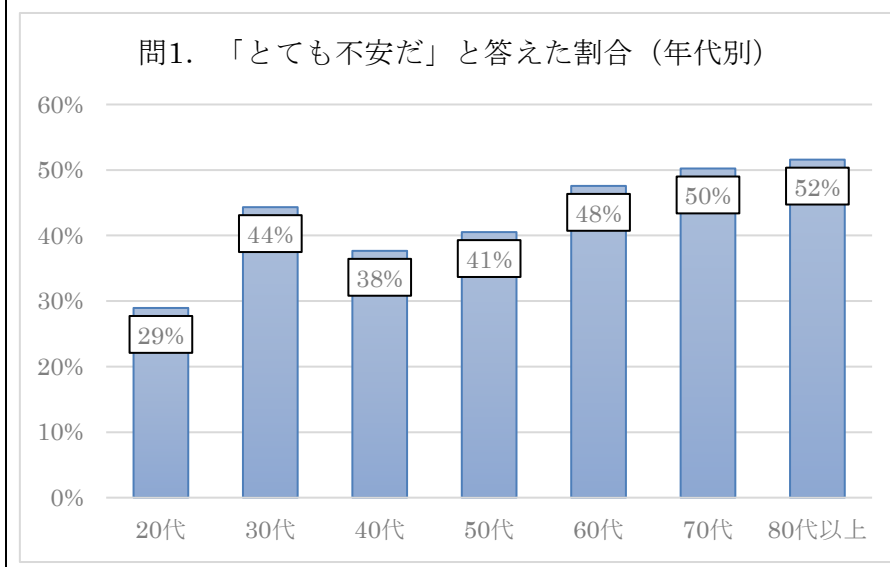
50代 : 343

60代 : 433

70代 : 868

80代以上 : 316

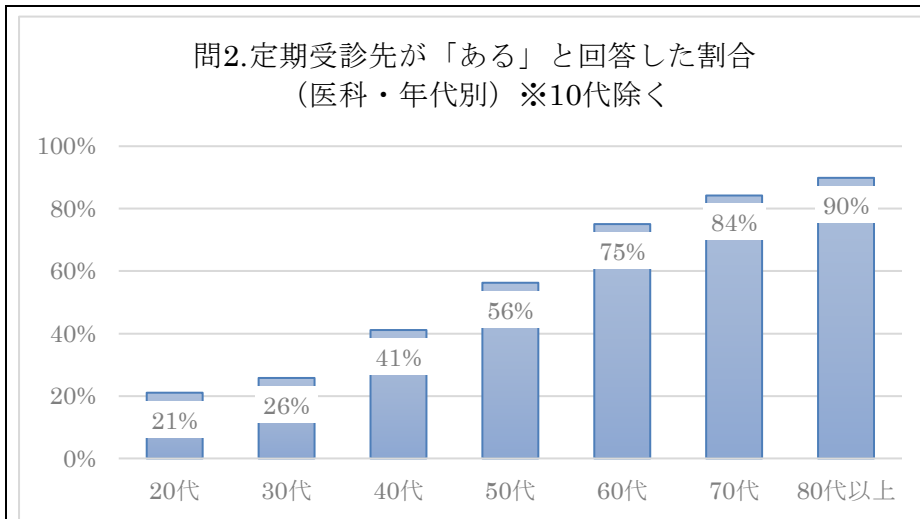
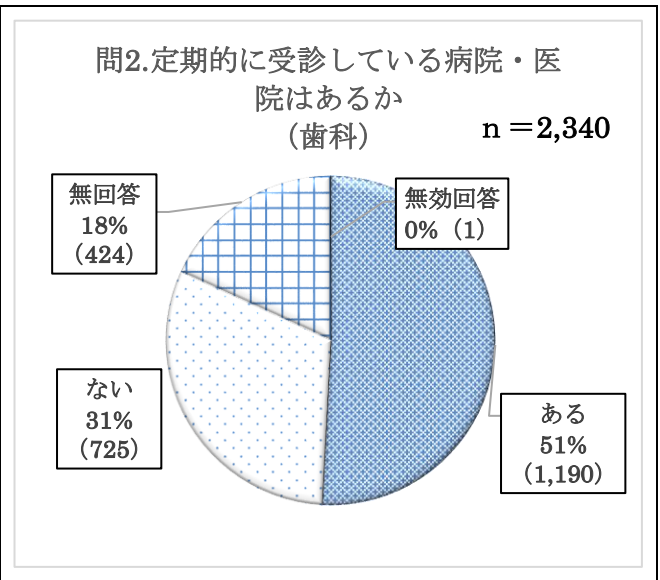
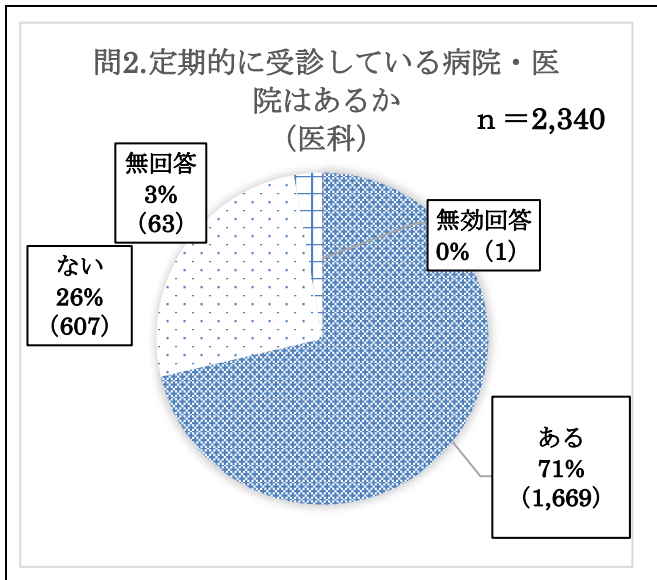
年齢不明 : 11



問2.定期的に受診している病院・医院はありますか。(1つを選択)

①ある ②ない (※医科歯科とも「ない」方は問5へ誘導)

◆「定期的に受診している病院・医院はあるか」を全年齢に聞いたところ、医科では7割、歯科では5割が「ある」と回答。年代別にクロスを掛けると、高齢者ほど有病率が高いことを反映し、年齢が上がるにつれ概ね漸増している。80代以上では医科で9割、歯科で64%が定期受診先ありという結果となっている。



<再掲>

年代別サンプルサイズ

20代 : 38

30代 : 97

40代 : 231

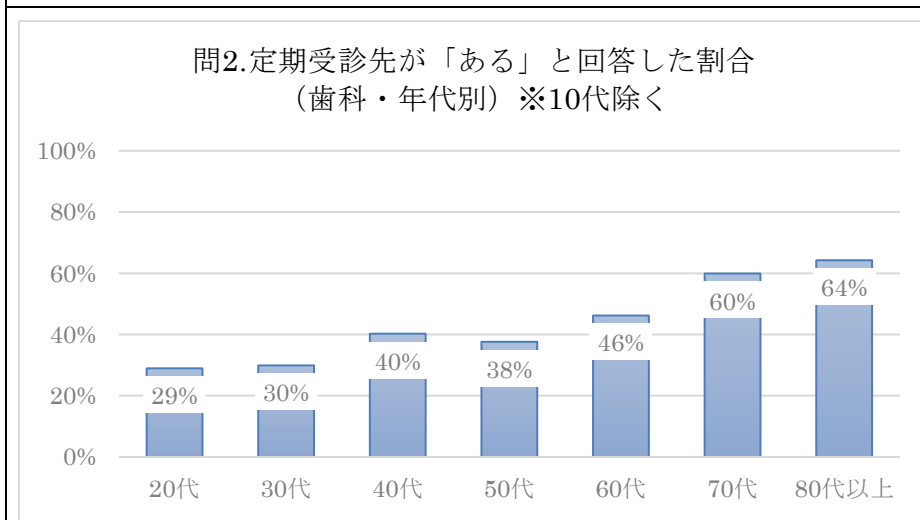
50代 : 343

60代 : 433

70代 : 868

80代以上 : 316

年齢不明 : 11



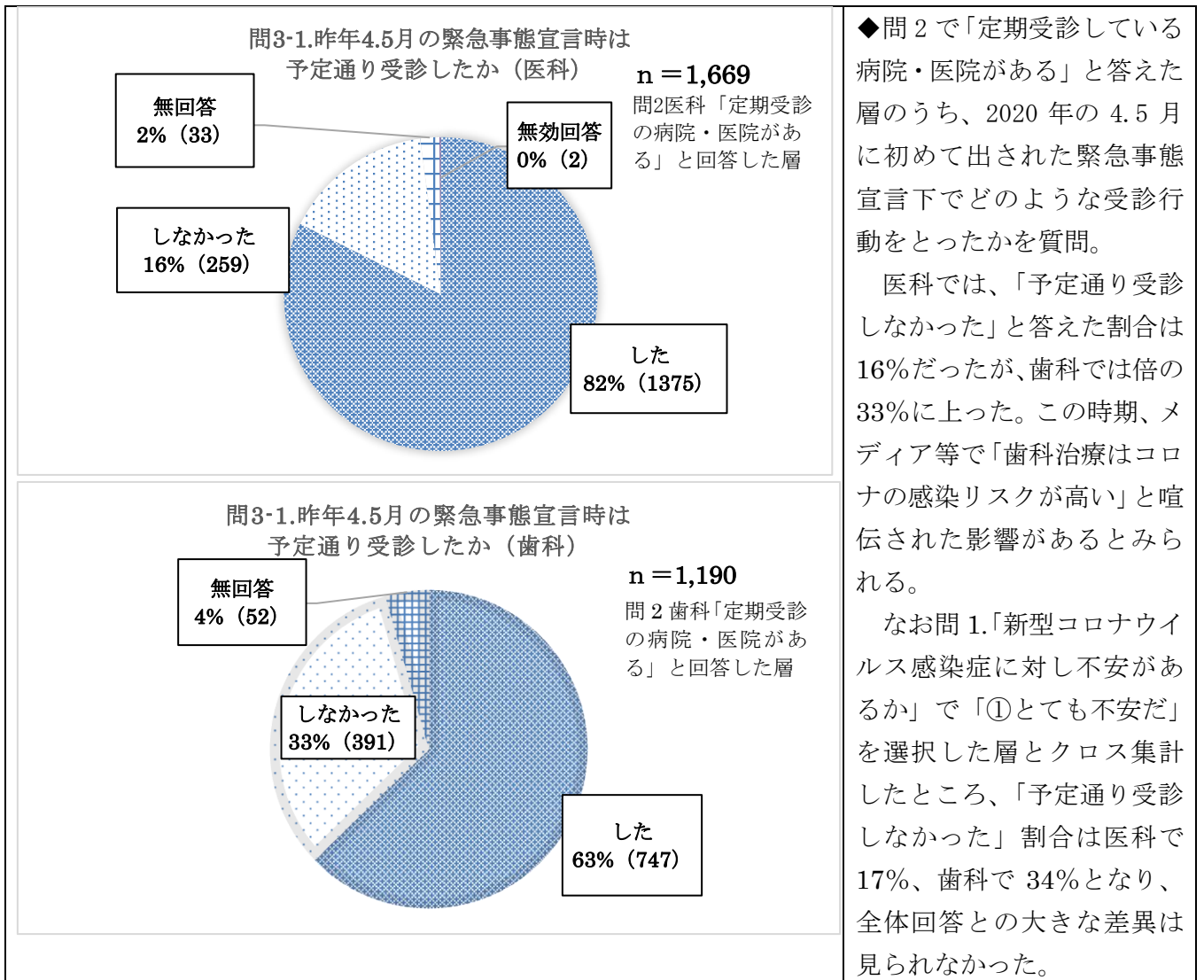
初の緊急事態宣言下 歯科では3割超が「予定通り受診せず」

(問2で「定期受診している病院・医院がある」と答えた層へ質問)

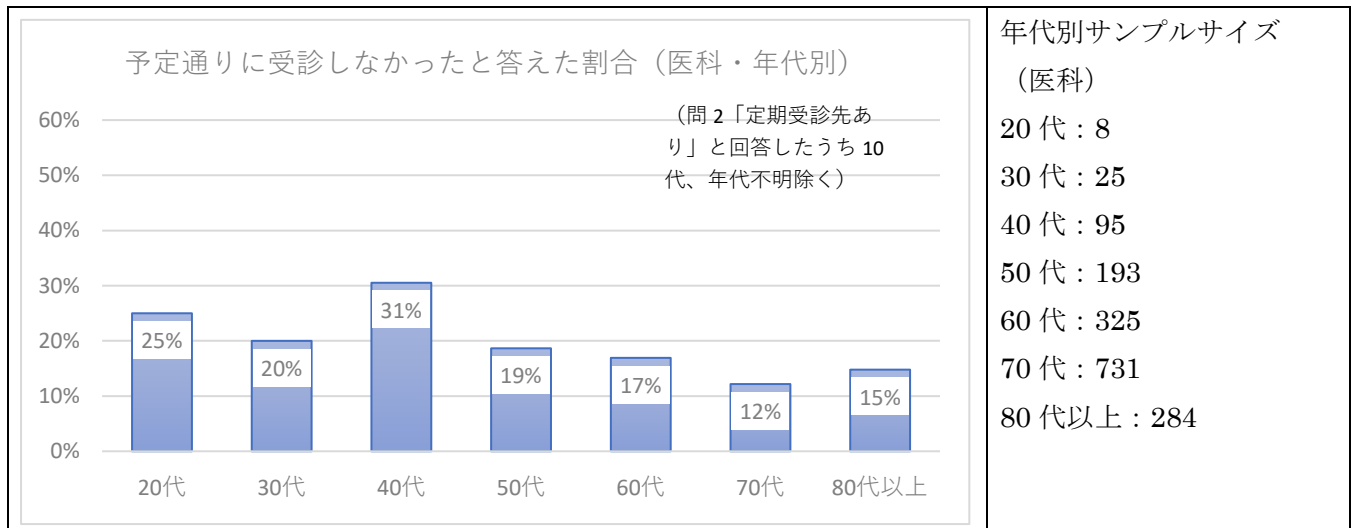
問 3-1.今年（調査年は 2020 年）の 4.5 月（緊急事態宣言時）は予定通り受診しましたか。

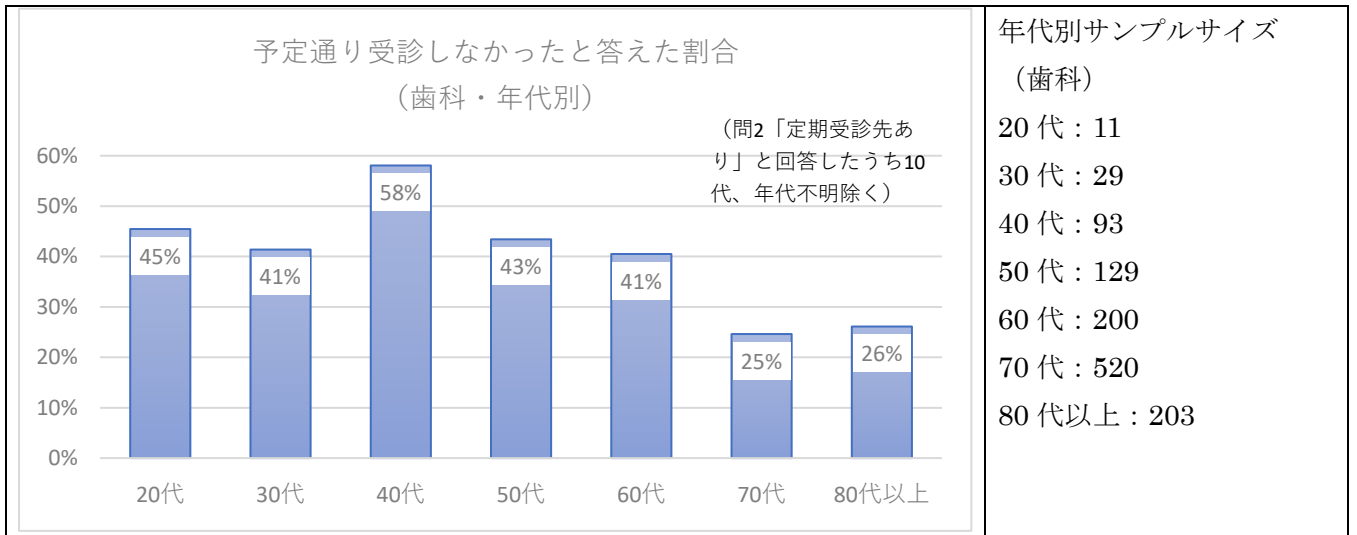
①予定通り受診した ②しなかった

（※予定通り受診した層は回答終了、医科歯科いずれかでも「しなかった」方は問 3-2 へ誘導）



なお、「予定通り受診しなかった」層の年代別の割合をみたところ、医科歯科ともに 40 代が突出。医科歯科ともに 40 代をピークに緩やかなカーブを描き、高齢になるほど予定通り受診した人が多かった。





深刻 歯科では47%が「受診をやめたまま」

(問3-1で「医科歯科いずれかでも「予定通り受診しなかった」と回答した層へ質問)

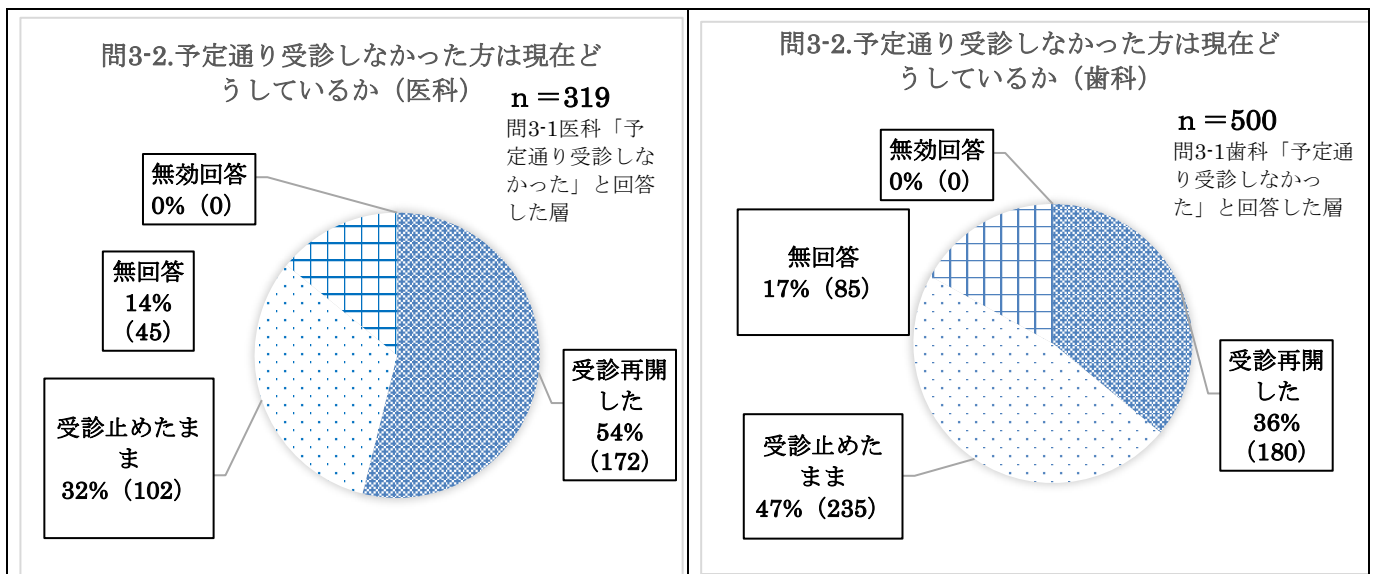
問3-2.医科・歯科いずれかでも「予定通り受診しなかった」方は現在どうしていますか。

①受診を再開した ②受診をやめたまま

◆医科では「受診を再開した」が54%と過半数で、「受診をやめたまま」は32%。歯科は「受診を再開した」が36%にとどまる一方で「受診をやめたまま」が半数近くに上っており、より深刻な結果となった。

※ここでいう「現在」とは回答時点(2020年11月~2月時点)を指し、2021年7月現在の状況とはズレがある。

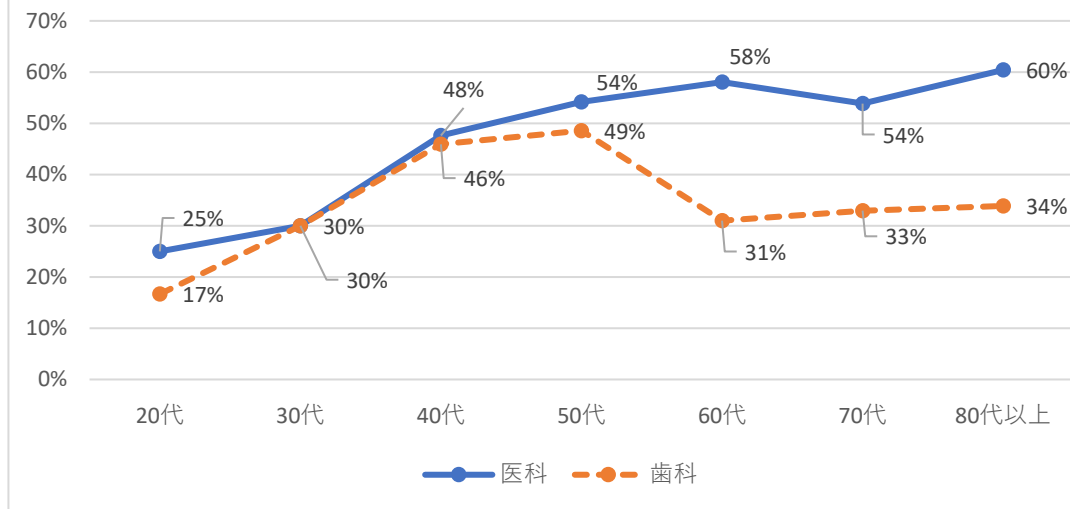
(なお問3-1は「定期受診の病院・医院がある」層にのみ聞く前提の設問であるが、それ以外の層も回答している。ここでは問3-1の全回答を母数として算出したため問3-1のグラフ内の数と母数が異なる)



年代別でみると、「受診を再開した」と答えた割合は、20代、30代など若い層で低かった(ただし若年層はそもそも定期受診先がない人が多く、サンプルサイズが小さい)。医科は「受診を再開した」を答えた割合が年齢が上がるにつれ概ね漸増傾向だったが、歯科は50代をピークに60代からは大き

くその割合は落ち、高齢者で特に歯科の受診に大きくブレーキがかかった状態であったことが分かる。

「受診再開した」と答えた割合（年代別）



<再掲>年代別サンプルサイズ（内科）

20代：4／30代：10／40代：42／50代：48／60代：62／70代：104／80代：48

<再掲>年代別サンプルサイズ（歯科）

20代：6／30代：20／40代：61／50代：70／60代：100／70代：179／80代：62

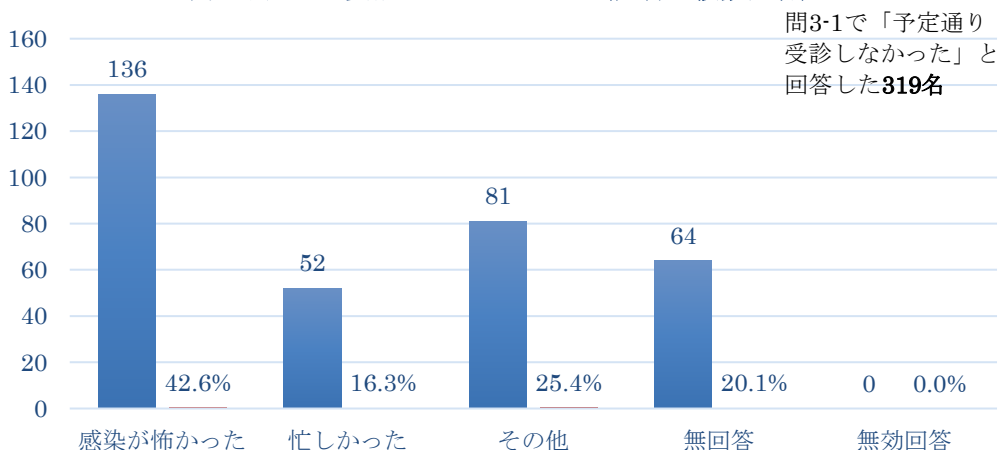
問4. 予定通り受診しなかった方にお聞きします。その理由は何ですか（複数回答）。

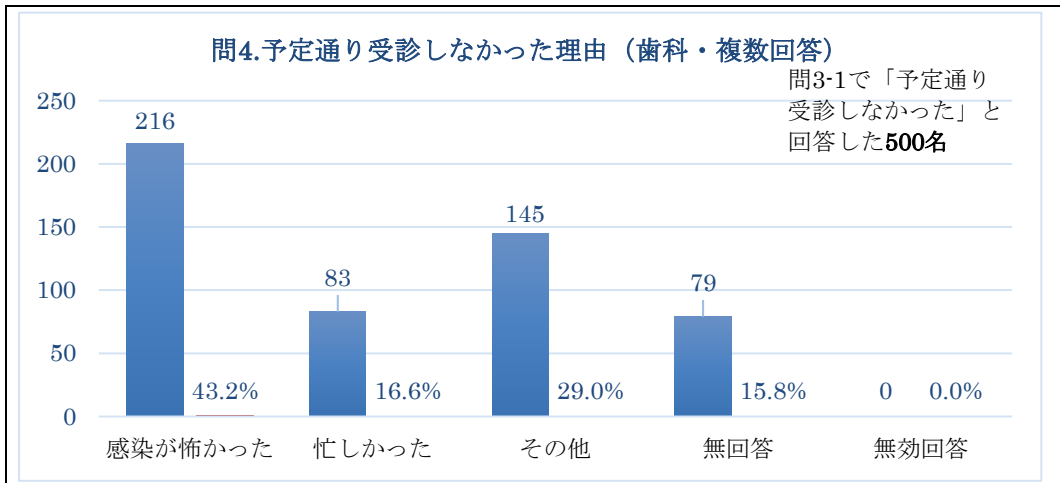
①コロナ感染が怖かったから ②忙しかったから ③その他

◆2020年4.5月に予定通り受診しなかった層に理由を聞いたところ、最も多かったのは、「感染が怖かった」で、医科歯科それぞれ回答者の4割超が選択した。「忙しかった」は、医科で16.3%、歯科で16.6%ともほぼ同割合だった。

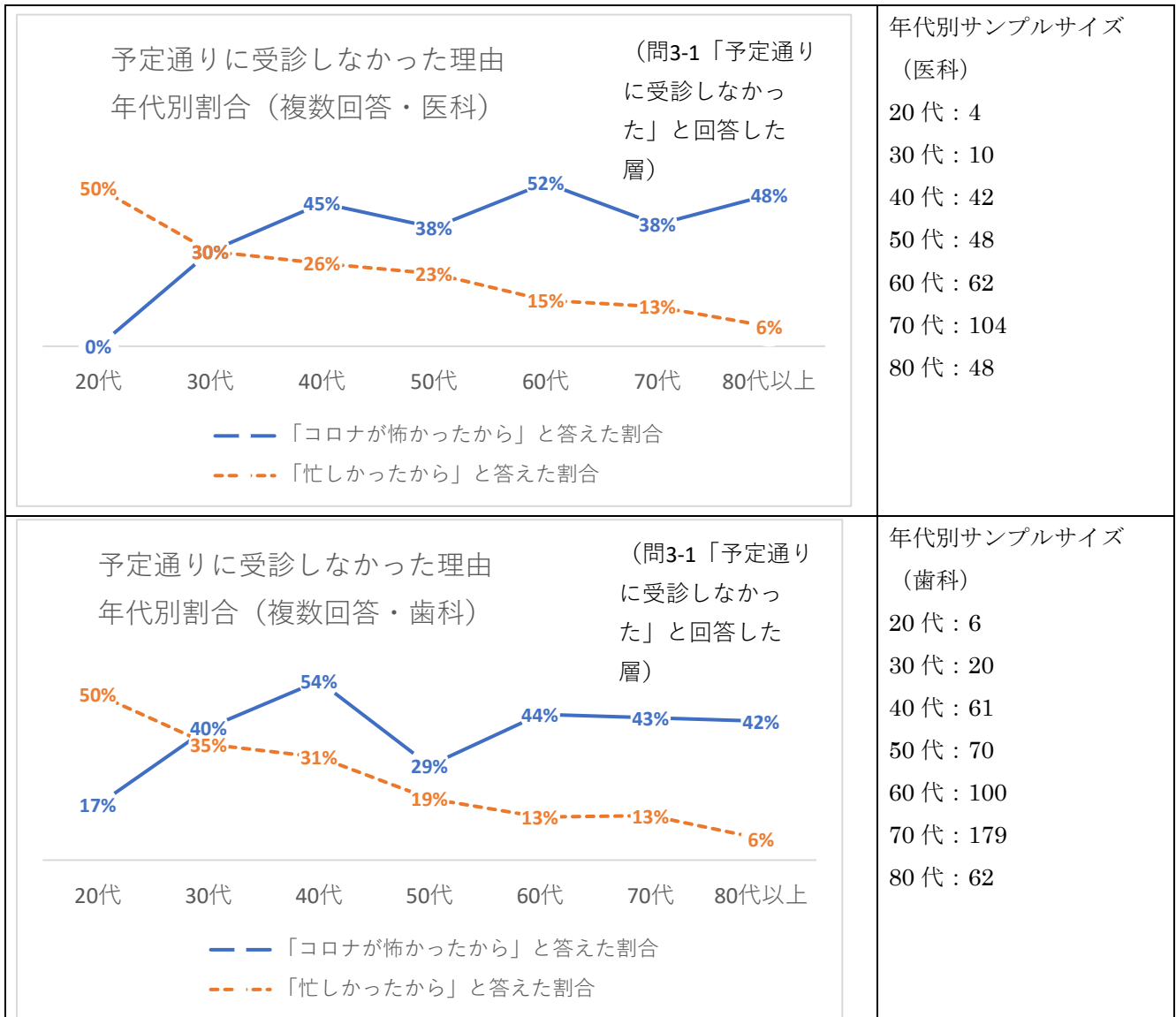
（なお問3-1は「定期受診の病院・医院がある」層にのみ聞く前提の設問であるが、それ以外の層も回答している。ここでは問3-1の全回答を母数として算出したため問3-1のグラフ内の数と母数が異なる）

問4. 予定通り受診しなかった理由（医科・複数回答）





予定通りに受診しなかった理由 (複数回答) を年代別にみると、「コロナが怖かったから」と答えた割合は医科歯科ともに比較的低い 20 代から 40 代にかけて上昇し、50 代で落ち込み、60 代で再び上昇するという M 字カーブまたは横ばいを描いている。また、「忙しかったから」と答えた層は、20 代でピーク、その後年齢が高くなるにつれ下降し 80 代では 6% 余りとなっている (ただし、若年層は定期受診先を持っている割合が低くサンプルサイズが小さい)。



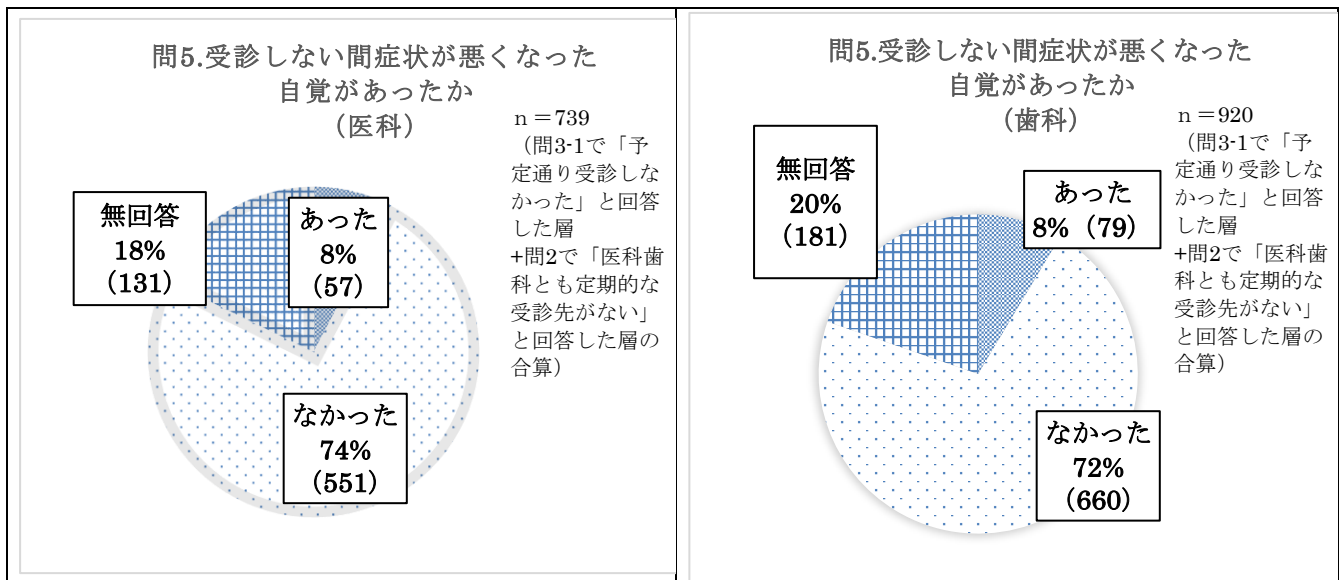
歯科では、緊急性の低い歯科治療の延期を求める趣旨の事務連絡が厚労省から出され（2020年4月6日付事務連絡）、同趣旨の呼びかけが日本歯科医師会から会員医療機関に通達された。「その他」3割の中には、これらの事情による受診延期のケースも含まれると考えられる。

深刻 受診控えた層の8%が「悪化を自覚」

問5.受診をしない間、症状が悪くなった自覚があったか（途中で受診を中断した方のほか、定期的な通院先がない方含む）。

①あった ②なかった（※「なかった」方は回答終了）

◆問3で「予定通り受診しなかった」と回答した層と、定期的な通院先がない層（問2から）を合算。「受診をしない間に症状が悪くなった自覚があったか」に対し、「あった」と答えた層が医科歯科ともに8%に上った。ここで聞いているのはあくまで自覚症状であるため、検査数値など患者が自身で知り得ないものを含めると、悪化していた割合はさらに増えるとみられる。



なお、問3-1「予定通り受診しなかった」と回答した層（医科歯科いずれかに定期的な受診先がある層＝慢性疾患等をもつ患者層と推定）に限ると、医科では「症状が悪くなった自覚があった」が7%、「なかった」が58%、「無回答」が35%だった。同じく歯科は「あった」が9%、「なかった」が59%、「無回答」が32%となった。また、医科歯科ともに定期的な受診先がない層（＝慢性疾患等がない層と推定）では医科では「あった」が8%、「なかった」が87%、「無回答」が4%で、同じく歯科は「あった」が8%、「なかった」が87%、「無回答」が5%となった。

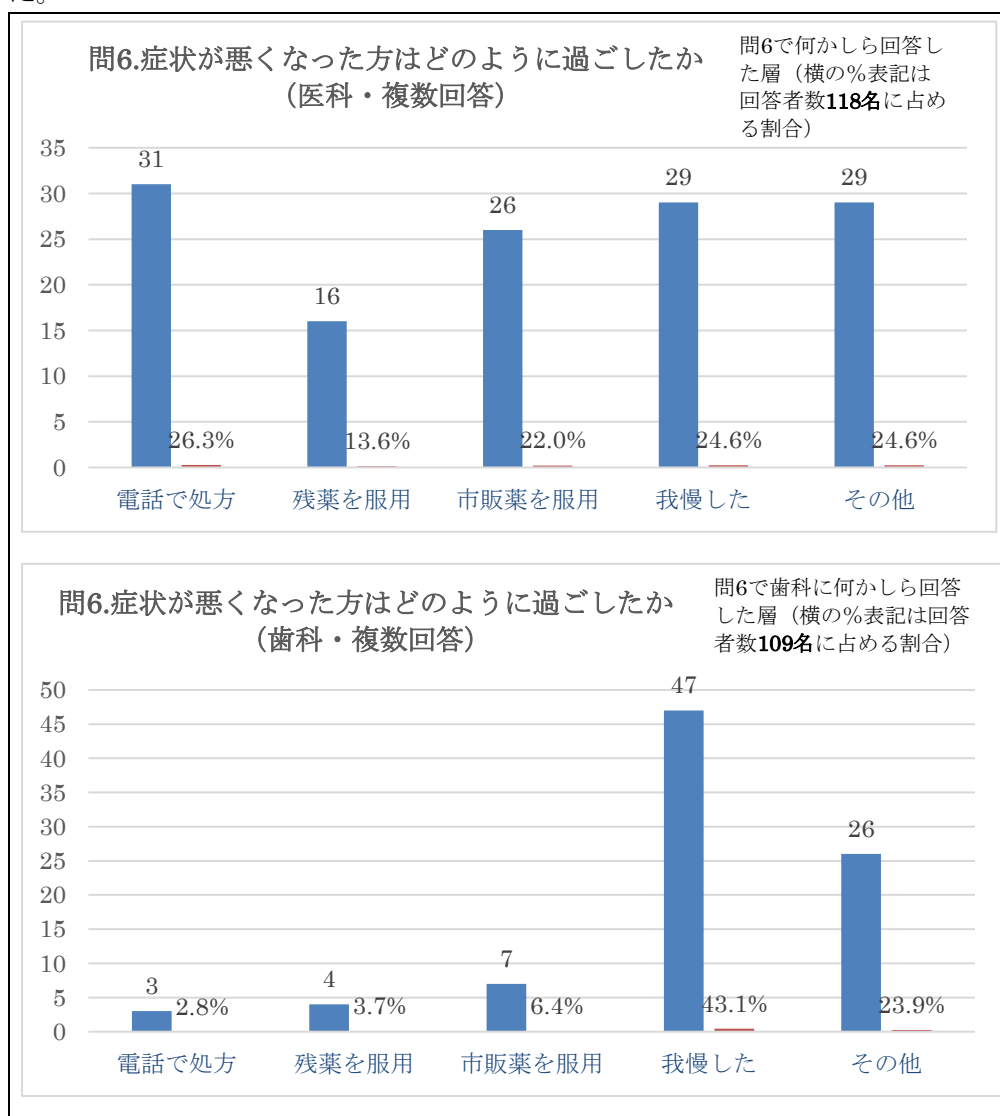
悪化自覚しても… 歯科 4割が「我慢した」

問6.「症状が悪化した自覚があった」方はどのように過ごしたか（複数回答）。

①電話で薬を処方してもらった ②余っている薬を飲んだ ③市販薬を飲んだ ④我慢した ⑤その他
（問6で何かしら回答した人の数を母数として算出）

◆医科歯科同一の選択肢としたが、医科ではコロナ禍において電話での処方が特例的に認められたことを受け、「電話で薬を処方してもらった」を4人に1人が選択している一方、歯科では電話処方なじまない

ためか、割合は3%弱と低かった。「我慢した」と回答したのが医科では25%だった一方で、歯科では43%に上った。医科では、「市販薬で我慢した」(22%)、「残薬を服用」(13%)という選択肢もあるが、歯科領域で市販薬が想定されるのは「痛み止め」くらいであり、それぞれ6%、4%とかなり低い割合に留まった。



【全体を通して】

今回の調査で、定期的な受診先がある方のうち、医科で16%、歯科で33%が昨年緊急事態宣言下で予定通り受診しなかったという結果が得られた。当会が昨年4～7月に3回にわたり会員向けに行ったアンケートで、医科よりも歯科の方で受診控えが顕著であった結果とも一致する。また受診を控えた患者が、自覚できる範囲に限定しても、医科歯科それぞれ8%の方が症状悪化したことが明らかになった。当会の前回の調査では、医科4割、歯科6割の会員が患者の健康悪化事例（検査数値の悪化、歯周病やう蝕の進行）を経験している。今回のこの8%という数字は臨床の肌実感からそう遠くない。患者が自覚しえない検査数値の悪化等も含むと、この割合は更に上積みされることが懸念される。

この件に関するお問い合わせは、[TEL:045-313-2111](tel:045-313-2111) 担当事務局：(田中・園田) まで